

## 挨拶について考える

ゲーフラさかた

6年近くいた北海道から異動して早や3ヶ月、今年の北海道の山は残雪が多いようですがまた登りたいと恋しく思う今日この頃。山と言え、登山では見ず知らずの人に必ずと言っていいほど「こんにちは」と挨拶をします。挨拶はコミュニケーションの第一歩といえますので今回はこの挨拶について少しばかり紹介します。

世はコロナ禍でプロスポーツは観客数をはじめ応援などの規制をかけて実施されています。

Jリーグにおいては声援や大型フラッグを使つての応援が禁止されています。この為、日頃は歓声にかき消されていた試合中の選手、ベンチの声はもちろんのこと審判の声もよく聞こえる興味深い状況を見ることができそれはそれで大変お得感のあるものです。特に“審判追っかけ”を趣味の一つにしている私にとってはコロナ禍で唯一の良かったと思える事象と言っても過言ではありません。さて、その試合中ですが、選手が審判に対して伝えたい時(主に不服ですが)は「レフリー！」「審判！」の呼称が多いのですが中には「おい！」という声も聞かれます。通常の社会では失礼な言い方だと思いますが、経験を積んだ選手は審判の名前を呼ぶことが多いようです(呼び捨てではなく〇△さん)。審判も人の子ですから、名前で呼んでくれた方が気持ちはいいはずで、このことは以前にプロフェッショナルレフリー(プロの審判のこと、以下PR)の方が述べていました。それが判定に左右することのないように笛は吹いているのですが。

ピッチ上は社会の縮図のようであり、選手、ベンチ、審判のコミュニケーションが試合内容を左右すると言っても過言ではありません。そして審判は試合という社会のマネージメントを行っています。PRである佐藤隆司氏によれば審判に



試合前に主審の上田氏(左)、PRでVARの荒木氏とコミュニケーションをとる筆者

とって大事なことは

- ①選手や監督とどういう関係を作れるか
- ②その為にはピッチで選手と挨拶や会話をする事。そのことで一緒に試合を作っているという感じが多くなる

審判を試合前から観察しているとキックオフ40分前あたりから行われるウォーミングアップから選手とのコミュニケーションをはかっています。



ベテランの選手ほど審判に歩み寄って挨拶をしていますし、審判から選手やコーチに挨拶をしている場面もよく見ます。全ての試合で見られるわけではありませんが、PRや経験豊富な審判程このような挨拶をしています。このご時世なので握手はできませんが、肘タッチで言葉を交わしている光景を見ることができます。いきなり試合に入るよりも、試合前にこのように、挨拶というコミュニケーションで選手やベンチと良好な関係を構築してから試合に入ると、いわゆる反則の多い“荒れる”試合になることも減っているように思えます。

振り返って我々の職場ですが、朝の会話もほどほど(ぼそぼそ)に席に座っていきなり仕事を始めていないでしょうか。

「おはようございます」の挨拶をはじめ始業前の雑談等のコミュニケーションは人と人との潤滑剤となることの大事さをサッカーの試合を見ながら感じている今日この頃です。安全に直結する気持ちの良い職場作りの第一歩はこの挨拶なのではないでしょうか。

もっとも個人的には家庭でのコミュニケーションを問われるとかなりイエローに近いわけですが。



## 家庭も職場もご安全に！

J1リーグでは昨年からはVAR(ビデオ・アシスタント・レフリー)制を導入。審判団は毎試合6名で構成。VAR2名とピッチ上の4名は無線でコミュニケーションをとっています。(2021年4月IAIスタジアム日本平にて)

